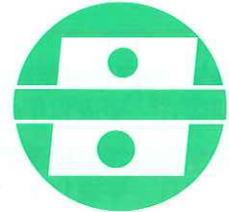


第11号

みらい子育てネット だより



発行

全国地域活動連絡協議会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1-10F

財団法人 児童健全育成推進財団内

TEL. 03-3797-8183~4 FAX.03-3486-5142

<http://www.hahaoya-club.ne.jp/>

- 平成14年度活動方針 ●平成14年度主な年中行事
- 活動報告 ●トピックス ●関係団体紹介
- 全国大会報告 ●事務局だより



※※表紙の写真を募集しています。日々の活動や催事など、みらい子育てネット事務局までどしどしご応募ください。※※

各ホームページアドレス ●厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/> ●財団法人 児童健全育成推進財団 <http://www.jidoukan.or.jp/index.html>

事故防止活動について

「母親クラブによる遊び場の遊具の点検
および事故防止活動事業」について

全国地域活動連絡協議会(旧全国母親クラブ連絡協議会)では、社会福祉・医療事業団の助成を得て、平成十三年度から三年計画で「母親クラブによる遊び場の遊具の点検および事故防止活動事業」をスタートいたしましたので、事業内容をお知らせいたします。

一、平成十三年度の事業内容

1 全国の母親クラブを対象とする「遊び場における事故防止活動に関する実態調査」[アンケート調査・悉皆調査]を実施いたしました。

2 母親クラブによる事故防止活動に関する現地調査を実施いたしました。【全国五箇所の母親クラブおよび地方自治体担当部署を対象とするヒアリング調査、および児童遊園・都市公園等の現地調査】

3 欧米主要国における遊び場事故防止対策に対する文献・資料の収集、翻訳、整理を実施いたしました。

4 右記1、2の調査結果を分析し、また3を参考として公共の遊び場における事故防止活動の課題を整理し、今後の活動指針(報告書)を作成した。間もなく皆様のお手許にお届けいたします。

二、平成十四年度の事業内容

1 モデルプログラムによる安全点検講習会の試行および受講者を対象とするアンケート調査、並びに、モデルプログラムの検討・修正を実施いたします。

2 地方自治体との協働システム検討会の開催および協働システム検討・修正を実施いたします。

3 安全講習会モデルプログラム(地方自治体との協働システムも含む)を作成し、配付いたします。

平成14年度 主な年中行事

●第29回地域組織活動指導者全国大会

開催日 平成14年6月13日(木)~14日(金) 開催地 「愛媛県」

●全国地域活動連絡協議会総会

開催日 平成14年6月14日(金) 開催地 「愛媛県」

●全国地域活動連絡協議会指導者研修会

| | | | | |
|---------------------|-----|-----------------------|-----|-------|
| <中国・四国・九州ブロック> | 開催日 | 平成14年 7月11日(木)~12日(金) | 開催地 | 「宮崎県」 |
| <東海・近畿・北陸ブロック> | 開催日 | 平成14年10月24日(木)~25日(金) | 開催地 | 「富山県」 |
| <北海道・東北・関東・甲信越ブロック> | 開催日 | 平成14年11月 7日(木)~ 8日(金) | 開催地 | 「宮城県」 |

●全国地域活動連絡協議会理事会

開催日 第1回 平成14年6月12日(水)／第2回 平成15年1月10日(金)／第3回 平成15年3月14日(金)
開催地 第1回「愛媛県」／ 第2回・第3回「東京都 渋谷・こどもの城」

みらい子育てネット

活動報告

北海道・東北ブロック
活動報告

未来子育てクラブあきた

「未来子育てクラブあきた」は、平成十年に発足し、会員数百二十三団体、構成員一〇五八一人、役員は、子育て真盛りの若年層から老人層までの九人(男性五人、女性四人)で組織されている。役員は、全国に類をみない各層・異業種で、各々の立場から意見が出され、官・民一体となって活動をしている。

当クラブは、1 結婚をしない若い人達へのサポート 2 晩婚 3 いわゆる「生み損」の問題意識 4 母親の心理的負担の重圧 5 仕事と育児の両立支援 6 子どもの健康と環境 7 子どものしつけ・教育問題等 を、少しでもお手伝い出来ればと、平成十年より毎年サポーター養成講座を開講し、県内三ヶ所で各市町村をまわって実施し、三一五人(当クラブ主催)の修了者を登録している。修了者同志が仲間を作り、企業家として立ち上がり、仕事をもらえる準備までを当クラブは手伝っている。

例えば秋田県議会定例議会には、議会傍聴が子ども連れでも来れるように、議会の一室を開放して頂き、有料(議

会よりサポーターへ支払い)で預かったり、各種イベントでも有料で一時的預かりをし、若い母子の参加もみられるようになった。

修了者に対しては、毎年県内各地でフォーラム、研修会等での再教育を行い、地域社会の人々の関心度を高める為、一緒に参加して頂き、子育てをサポートしようと官・民一体となって活動している。

当クラブは未だ設立して四年であるが、県内どこでも安心して子どもを生み育てやすい環境づくりに、役員を始め会員と一丸となって頑張っている「あきた」である。

記 阿部 恭子



関東・甲信越ブロック
活動報告

児童養育に関する研修活動

栃木県地域活動連絡協議会

児童養育の研修の一つとして、会員や一般の方を対象に「子育て支援講演会」を実施しています。

より参加しやすい形ということで、開催場所を県南・県央・県北とし、それぞれの地域の参加者の年齢に合わせたテーマで開催してきました。

県南では若い会員が多いため、七十名のお子さんをお預かりしながら「たのしい子育てしてますか」と題した講演会で、就学前の子どもたちの子育てについての親と子のあり方などを中心とした、面白くてわかりやすいお話と、参加者を交えての「いじめ」についてのロールプレイングを通して、地域での子どもの成長を見守っていく大切さを実感しました。

県央では、「思春期ゆれるとき…」と題して、本気で子どもに接する親の大切さを学びました。

県北では「家庭内暴力へヘルプ!」と題し講演の前半では、拒食症の女子中学生の家庭内暴力をロールプレイで演じていただき、親の敷いたレールに反発する娘の様子に、参加者の複雑な表情が見られました。後半は、会場からの質問に対し、ロールプレイで問題を考えていく会場参加型の進め方に、真剣に参加いただきました。

どの講演会も、県内の教育相談事例を題材として、教育相談所の部長先生にお話をいただいたので、参加者の耳

にも入りやすい研修ができたのだと考えています。研修の参加者には、必ずアンケートをお願いしています。一般の方からのアンケートにも、これからの県地協の活動につながる貴重な意見をたくさんいただいています。子どもと一緒に参加できる研修の要望も来ています。環境作り等を工夫し、参加したい方が参加できる研修を企画していきたいと考えています。

記 前田 洋子



東海・近畿・北陸
ブロック活動報告

親子及び世代間の交流・文化活動



愛知県尾張旭市
みらい子育てネット 瑞鳳

三世代交流の実践報告
「シニアクラブの方々とともに」

私たち「みらい子育てネット瑞鳳」は、三世代交流に積極的に取り組んでいます。毎年五月の第二土曜日に児童館と共催で行っている「こどもまつり」には、六百人以上の来場者があり、一大イベントになっています。尾張旭市には、九つの小学校区すべてに児童館が創設されており、これらを拠点に九つの子育てネットが独自の活動をしています。そして、九つの単位ネットは、共同事業や情報交換を通して、協力しながら「みらい子育てネット尾張旭」(尾張旭市地域活動連絡協議会)を形作っているのです。

瑞鳳の「こどもまつり」で毎年重要な役割を果たして下さっているのは、シニアクラブの方々です。担当は、「伝承遊びコーナー」と「模擬店のジュースコーナー」と「駐輪場整理」の三つです。「伝承遊びコーナー」では、こま・けん玉・だるま落とし・めんこなどの昔から伝わっている楽しい遊びを子どもたち

ちに提供します。シニアクラブの方々には、ぴったりのコーナーです。子どもたちと接することを楽しんで下さっている様です。駐輪場を整理する係の人は、ずっと立ちどおしで子どもたちの自転車を整理したり、道路にはみ出して歩く子どもたちの安全を気遣って下さいます。

十二月の「もちつき大会」「しめなわ作り」でも、昔とった杵づかまを披露していただいています。「もちつき大会」では、毎年このことで段取りもよく、十六臼のもちを順番に蒸し上げついでいきます。くどの周りには、暖を取りながら話に花が咲きます。「しめなわ作り」では、児童館で募集した子どもたちに縄のない方を丁寧に教えて下さいます。同時に、集会所のお社に飾る巨大なしめ縄を作り子どもたちを感心させます。瑞鳳校区には盆踊り・コミュニティ運動会・どんど焼きなどの行事があり、自治会・シニアクラブ・子ども会の方と一緒に、私たちみらい子育てネットも参加しています。

記 中村 洋子



中国・四国ブロック
活動報告

児童事故防止のための活動

香川県多度津町
地域活動連絡協議会

多度津町は、香川県の中でもっともうどんの美味しい仲多度郡に有り、郡に於いては、ゆいいつ海に面し、近くに工業地帯・大きな造船場などが有るため、車の往来が激しく、事故及び事件から一人でも多くの子どもを守ることを重要な活動目的と考え、活動しています。

近くの短大の体育ゼミの学生さん、高校生、小学生高学年の子どもたちに協力を得て、手作りの踏切やバスを使い、役員と小学生による寸劇クイズに、信号に見立てた青・赤のうちわを使って答えを出してもらいます。

続いて『体験コーナー』では、保護者の方にチャイルドビジョンを用い、子どもの目線と視野になり、交通教室に参加し、家の近くを歩いて下さいと声をかけています。事故の際、衝突の衝撃を体験できるシートベルトコンビンサーを使って親子で体験し、また、ダミー人形が車に跳ねられる場面を子ども達に見てもらうなどしています。事故防止の大切さを勉強してもらった後は、ご褒美にくじ引き、輪投げ、お面作り、風船遊び、バスケットボールと色々遊びのコーナーも用意し、子ども達に楽しんでもらっています。尚、全地連推進事業の危険箇所・遊

び場点検活動とともに、多度津町は通学路の危険箇所点検を実施しようと役員会で話し合いましたが、どのような方法が適しているのか模索している段階です。

いつも、ご協力を頂いている警察署、各団体、町関係者の方々に感謝し、これからも子ども達の事故防止活動に努力して行きたいと考えておりますが、まだ不十分な活動の為、ご意見ご指導の程をお願い申し上げます。

記 大谷 操



九州ブロック
活動報告

児童福祉の向上に寄与する活動

鹿児島県地域活動連絡協議会

北薩ブロックでは、平成十三年に誕生した「阿久根おひさまクラブ」にて、「あくねっ子児童クラブまつり」開催に協力しました。

市内の五つの児童クラブや指導者、地域の老人クラブや青年会議所の方々約三五〇名が参加して、餅つき大会や、青年グループの太鼓、津軽三味線、各クラブのコーナーでの竹馬や竹笛、ペットボトル利用のおもちゃやゲームを楽しみました。

会場の一角には、「こどもの城」が未来をテーマに募集した折り紙の造形作品、「おりがみカーニバル巡回展」もやって来ました。おひさまクラブの会員が、紙を染めるところから挑戦した力作も並びました。多くの参加者が、それぞれの作品の発想や感性の豊かさに感心して見入っていました。子どもも大人も、このように楽しく集いながら、自分たちの住む地域や、他の地域に目を向け理解し合い、共に育ち合うことの大切さを肌で感じたことでしょう。

南薩ブロックでは、昨夏、枕崎市母親クラブ「夢気球」や、別府児童館母親クラブ「つくし会」が、ブロック事業として、全国で展開された自主制作のレイチェル・カーソン原作の長編記録映画「センス・オブ・ワンダー」の上映会に参加しました。



「夢気球」では、男女共同参画推進団体「まくらざきハーモニーネットワーク」とともに開催に協力し、託児も担当しました。そして、三〇〇名を越える鑑賞者と共に、自然に対する気づきと感性を育むために、もっと子どもたちと自然体験をすることの大切さを学びました。

鹿屋ブロックでは、「なかよしクラブ」を中心に毎年環境学習会を行い、平成十三年度は市内の人たちと交流しようと、全国一斉ネイチャーゲーム大会に参加し盛り上げました。

エコクラブの中学生グループと市内の川沿いのルートを歩き、一メートル以上もあるヘチマや湧き水にびっくりしながら、異年齢交流の良い機会となりました。

記 柳 あつ子

トピックス

子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く

「国際子ども図書館」全面開館

平成十四年五月五日、国立国会図書館の支部図書館として設立された、我が国初の児童書の専門図書館「国際子ども図書館」が、上野動物園や国立博物館でおなじみの上野の森公園に全面開館しました。

この図書館は、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く」という信念に基づき、内外の児童書とその関連資料を広範囲に収集・利用すると共に、電子図書館機能を活用した情報の提供を行い、子どもの読書環境・情報提供環境の設備の充実をはかり、児童書のナショナルセンターとなることをめざしています。

その基本的役割は、「一、子どもへのサービスの第一線にある国内外の図書館と連携・協力をはかり、かつその活動を支援し、子どもの出版文化に関する広域的な調査・研究を支援するナショナルセンターとしての機能。」「二、子どもたちに読書の楽しさを伝え、図書館や本の世界に親しむきっかけを与えることを目的とした各種サービスを実施することです。」

ルネッサンス様式の代表的な明治期洋風建築として、東京都選定歴史建造物に指定されている建物は明治三十九年に帝国図書館として創建されました。国際子ども図書館として生まれ変わった図書館内の各室は、旧建物の空

間と意匠を出来る限り生かし、安全性・耐久性に十分考慮して、貴重な建築遺産を保存再生し、新たな機能と空間を持つ施設になりました。

3Fホールでは、子どもを主な対象とした科学あそびなどのイベントや児童文学作家、児童図書館関係者等を講師に招いての講演会、世界各地の絵本や児童書を紹介する展示会などが定期的に開催され、また毎週土・日には「子どものためのお楽しみ会」をおはなしのへやで開催し、人形劇や絵本の読み聞かせを行っています。

約30万冊の蔵書はインターネットからも検索でき、目的の本を見つけてから図書館を訪れることも可能です。

※休館日は、毎週月曜日、五月五日を除く国民の休日・祝日、年末年始、奇数月の第三水曜日
お問い合わせ ○三(三三二七)二〇五三

URL <http://www.kodomo.go.jp>



関係団体紹介

インテルビダ・ジャパン

国際支援団体(NGO)

発展途上国(インド、バングラデシュ、マリ、グアテマラ、エルサルバドル、ペルー、ボリビア)で活動している国際支援団体です。世界の貧窮地域で活動しながら、貧困に苦しむ人々の環境を改善して、生活向上をはかることが目的です。スラムから山岳地帯へ、砂漠から僻地の村々へと救援を要している人々に働きかけ、支援や希望をもたらしています。

私たちが提唱しています「命の掛け橋」という途上国の子供ひとりの支援に賛同していただければ、ビダサポートを通じて、子供たちは教育、保健衛生、食糧への十分な権利を確保できるのです。コミュニティや大人たちと一緒に活動していますが、主な活動は子供たちに関連しています。子供たちには、未来があり、国の基盤と言えます。一方で最も弱く、無防備でもあります。幸運にも、私たち先進国ではすべてが整い、教育、保健衛生、食糧といった基本的なものの欠如は想像できないでしょう。しかし途上国では毎日が闘いなので、インテルビダが活動をはじめると、希望や幸せが現れ、子供たちに笑顔がこぼれるのです。

他のNGOとの違いのひとつは、仲介を入れず独自のチームで活動していることで、集められた支援金はプロジェクトに直接送金され、公正でくもりのない、有効的な形で使われます。ゆえに、ISO九〇〇二資格(支援金回収や途上国の開発支援をする精励能力への認証)を保持する世界でも数少ないNGOであり、国

連の経済社会協議会の特殊協議資格も取得しています。

また運営費を最小限に抑え、全支援金の九〇%以上をプロジェクトに送っています。日本では、物価が高いため他の支援国よりも高い運営費で開始しており、八五%からはじめ、今後はこの割合を上げることがひとつの目標です。

自分の技術、熱意をつぎ込むことを決めた医師、看護婦、エコノミスト、技師、教師、ソーシャルワーカー、歯科医など様々な分野の専門家たちが集まり、インテルビダチームを作っています。

●私たちの活動を明確にした実績
 学校備品五〇万セットの配給、二日に一室の割合で教室を建設、子供たちに五〇万以上の冬服、栄養価の高い牛乳二万リットル以上、栄養価の高いパン二千八百万を配給、毎月水路設備の建設二七万人の子供たちにワクチン、四〇万以上の子供に健康診断、二三〇人以上の子供を保護している二つの孤児院二千人のお年寄りに無料白内障手術の実施など...

そして今、日本で二つの主な目的を持ってスタートしました。効率的な途上国の支援について日本の皆様に知っていただくことと、連係という考えの啓蒙活動または途上国の現状を説明しながら、日本社会に参加することです。

これらにより、貧困に対する助力に参加していただける選択権が、日本の皆様に与えられると言えます。

世界中にいる二〇万以上のビダサポーターにより、インテルビダプロジェクトの三百万人以上の人々を救っているのです。多くの人々がこの夢に参加してくださることを願っています。たった一つの私たちの地球から貧困を根絶する夢に向かって。

全国大会報告

全国大会を終えて

愛媛県地域活動連絡協議会

平成十四年六月十二～十四日第二九回(平成十四年度)の地域活動指導者全国大会と総会が、愛媛県松山市ホテル奥道後に於いて、県内外行政会員八百名の参加を得て開催致しました。

特に今回は大会前日を利用して、全県の会長を対象に、リーダーの在り方について研修会を行いました。内容については次の通りです。

「団体活動の活性化と、リーダーの役割について」

講師 愛媛県女性総合センター館長 客野久子先生

一、団体活動の活性化について

○参画意識 ○活動意欲と自己改革

○情報収集と情報発信。エンパワーメント

○コミュニケーションとネットワークキング

○男女共同参画による活動

二、リーダーの役割について

○方針の確立 ○組織の総合力の発揮

○創造性の発揮、人間性の尊重、人材育成

リーダーはいつも、しなやかに知性でもって包容力と心の広さで、会員を見つめ活動をしてほしい。そして、母親クラブ

は、子・母・家族にとって、心強い存在であると云われ、やる気と勇気を与えていた

いただきました。

第百目(六月十三日)開会式、あいさつ

●厚生労働省雇用均等児童家庭局育成環境課長 林重夫 ●愛媛県知事 加戸守行

●全国地域活動連絡協議会会長 飯野紀代子

●(財)こども未来財団専務理事 藤田興彦

●(財)児童健全育成推進財団常務理事

鈴木一志

以上五名の方々には、それぞれのお立場の中で言葉をいただき、これからの私達の活動に大きな自信と誇りを持つことが出来ました。そして、愛媛県知事加戸様のあいさつの中で、次の大会の時は男性の姿が多く見られることを期待していますと云われ、名称変更の意味の大きさに責任を感じさせられました。

つづいて表彰式が行われ、個人二二名・団体二七が、栄えある会長表彰を受けられました。

行政説明が厚生労働省 林課長様よりあり、これからの子育て支援について、国の施策等の、実情報告がありました。

【講演】「心の中に残る言葉、響く言葉」

落語家 桂七福さんによるお話

○言葉の使い方にはよく注意をして話すこと ○言葉の使い方によって、人が

傷ついたり喜びを感じたり感激をしたりするものです ○他人の環境や立場を

考えないで、自分の立場だけでの言

ったりする事は好ましくない ○他人

に指を差すことは、自分も他人から指を

差されていると思う事、だからしない事

○自分が人に言われて哀しかったり、

腹が立った事は、決して他人には言つた

りしたりしないようにする ○他人から

ほめられてうれしかった事は、自分も人

に言っただけのこと ○自分の言っ

た事、した事は、しっかり責任を持つ

○母親から教えられた心に残る言葉の

一つに、大人になる前に色々と経験する

ことはよい、責任の持てる大人になる事

が一番大切である

【フォーラム】テーマ「地域ですこやかに

子どもを育てよう」

●コーディネーター 愛媛大学名誉教授

井原栄二 ●パネリスト(以下同) 愛媛大

学教育学部教授 山本万喜雄

●愛媛県VYS連合会長 黒河武史

●N I K O N I K O 館館長 白川京子 ●愛

媛県地域活動連絡協議会副会長 宮内トシ

子

テーマについてそれぞれの現在の立

場の中から、見たり聞いたり感じた気持

ちを話していただきました。山本先生に

は専門的な面、黒河さんからは男性の多

い立場(団体の構成)、白川先生は児童館

や保育所の面から、宮内さんは地域組織

県連役員の中から、現在の社会情勢か

ら見た少子化の中で、子育て支援の厳し

さについて話を進めていただきました。

時間の都合上、充分に発言をしていただ

けなかったことが残念でした。

第一日目の最後は意見交換会。オープ

ニングセレモニーとして親子太鼓が披

露され、曲目も新名称の第一回の研修会

に相応しい出陣を、一才の幼子とともに

力強く叩いて祝って下さいました。参加

者全員が一つになって、心の温もりが伝

わる時間を味わう事が出来ました。

第百目(六月十四日)平成十四年度総会

収支決算報告、事業報告、承認、誓いの

言葉と、例年の次方を全部取り行い、無

事終了

【バズセッション】テーマ「これからの地

域活動に求められる役割」

参加者全員が十四グループに分れて

テーマにそって討議し、発表いたしました

た。どのグループも活発に発言され、参

加者全員が一言でも口を開いて参加し

た意義を充分認識してもらい、自分の意

見を全国の人に聞いていただき評価を

して下さる、その意味が大でした。司会

者より、無限の可能性を持つ子ども達の

ために、これからも頑張りましょう。と、

あいさつをされて閉じました。

最後は、愛媛県の四三年の歴史を持つ

「聖火のつどい」をさせていただきました

お礼を申し上げます。小さな一本一本のロソクの灯も、大勢の人が寄れば大きな灯となります。その一本の灯に幸せを願って、次期開催県、秋田県の成功を祈って終わりました。

事務局だより

平成十四年度全国地域活動連絡協議会総会において、役員の変更がありましたのでご連絡いたします。

退任 理事 菊地千恵子 会長(宮城県)

退任 監事 小嶋人美 会長(鳥取県)

新任 理事 阿部恭子 会長(秋田県)

監事 中岡博美 会長(広島県)

平成十四年度の総会が各県・市で開催され、会長の異動がありましたのでご連絡いたします。

退任 宮城県 菊地千恵子 会長

新潟県 漆山和子 会長

石川県 大野木潤子 会長

兵庫県 天田博子 会長

鳥取県 小嶋人美 会長

広島市 川中アケミ 会長

宮城県 佐々木とし子 会長

新潟県 野崎幸子 会長

石川県 中野恵美子 会長

兵庫県 森下裕子 会長

鳥取県 澤田真美 会長

広島市 藤井優子 会長

ご退任された皆様には、永い間母親クラブ発展のためご尽力いただき、心より厚くお礼申し上げます。

これからも、引き続き暖かいご支援と

ご指導を賜りますよう、切にお願い申し

上げます。